



おきなわ



沖縄セルラースタジアム那覇

沖縄県土地家屋調査士会



あれからもう2年

会長 久高 兼一

会員の皆さんこんにちは。日々いかがお過ごしでしょうか。

もう早いもので、私も会長職に就任してやがて任期の2年に達しようとしています。

現在は、第50回定時総会で計画した事業と予算の執行のチェックや法務局、連合会からの連絡事項の送信指示、対外的な会合への対応他、会務に追われる日々を送っています。お陰様で事業もほぼ計画通りに事業を終えております。

近々の報告としましては、1月に第2回の全国会長会議がありまして、林千年日調連会長からの報告で全国の自治体で懸案になっています空き家対策について、昨年11月に国会で「空家対策の推進に関する特別措置法」が決議され、同法第7条第2項で「協議会の構成員」及び同法第9条第2項で「立入調査の委任」においてそれぞれ土地家屋調査士の活用が示唆されています。このほか「空家を取り壊した際の土地の境界を明確にする対応」も全会一致で附帯決議がなされました。これは日調連と全調政連のご尽力による大きな成果であります。また、当会でも会員が困っております所有者不明地の対応についても、全会員へのアンケートを実施し、社会問題として取り上

げ、将来、法制化に向けての対応を検討とのお話もありました。日調連からこれらについて「追い風が吹いている」との頼もしいご発言がありました。

2月に行われました九州ブロック協議会の第6回会長会議では日調連が発信する「境界問題ゼロ宣言」を更に国民へアピールのため全国50会の会員へマグネットステッカーを配布し、業務用の車両に貼ってもらおうという取り組みも予定しています。先だつての当会の理事会では承認をいただき、次年度では予算化をします。

当会では2月7日に今年度2回目の新人研修会を開催しました。業務3年未満の会員へ業務部研修部の理事が日常業務について具体的な事例を交えて勉強し、受講者からも好評でした。2月14日には境界鑑定委員会が開かれ、当会の委員2名が参加しました昨年12月の日調連「土地境界実務講座」の会員への伝達研修会の検討を行いました。年度末の忙しい時期を外して、次年度に準備を整えて行う予定です。

第51回定時総会は5月22日金曜日に那覇市松川の沖縄都ホテルにて開催を予定しておりますので、会員皆様のご参加の方をよろしくおねがいします。

さて、次年度の平成27年度は創立50周年を迎える記念となる年になります。昭和40年に当時の「琉球土地建物調査士会」登録者70名の発足に始まり、その後、「沖縄県土地家屋調査士会」と名称を変えて諸先輩方のご尽力により素晴らしい業績と発展を遂げて、約40年を経た平成27年2月現在、会員数182名に至っています。

10年前の創立40周年記念式典祝賀会は当時の金城榮秀会長の下、私も総務部長として携わり、県内外より多数の来賓をお招きし、盛大に催しました。中でも祝賀会において各支部の余興は、当時、招待しました

九州各会の会長より「沖縄会の皆さんは大変芸達者ですばらしい。」とのお褒めも頂きました。

いよいよ記念式典と祝賀会は今年の11月20日金曜日の開催で、場所は那覇市松川の沖縄都ホテルに決まりました。今回もご参加された皆さんにお褒めを頂けるよう素晴らしい行事にしたいです。

最後に次年度も会員への連絡連携を密にして、指導も怠ることなく、「会員へ目の届く会」を目指したいです。

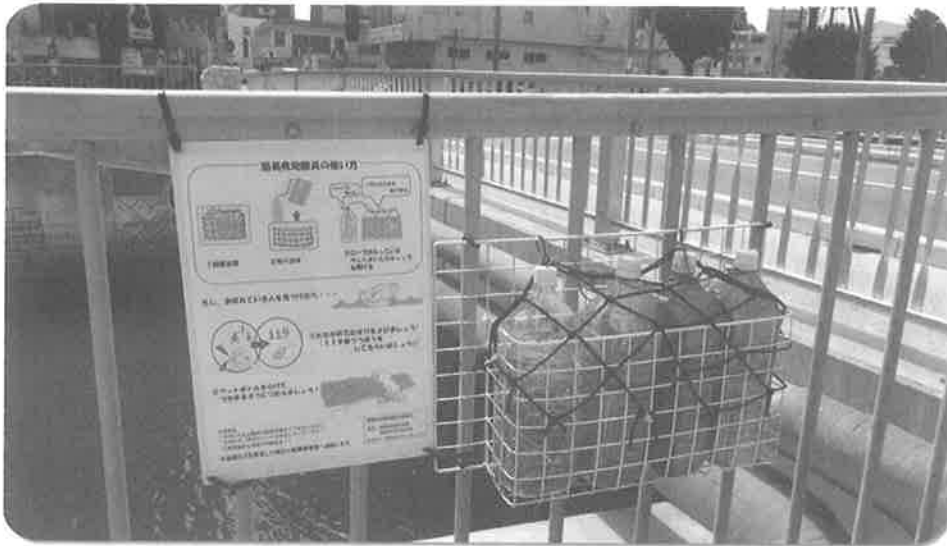
これからもご協力をよろしくお願い致します。



佐久川紀安先生 人命救助で表彰

那覇支部の佐久川紀安先生が、事務所近くの潮渡川で人命救助した功績により那覇市消防局より表彰され、琉球新報・沖縄タイムスの地元新聞や、テレビ放送（全国区）にもとりあげられ話題になりました。

広報部も事務所にお伺いし取材、「一瞬！事務所にトラロープを取りに行こうか？」とも思ったが、119番通報したそうです、活躍内容は新聞記事のとおりでありましたので、もうひとつの主人公（物）を後学のために写真に収めておきました。



橋の架かる交差点付近に設置され、使い方も掲示されています



佐久川事務所にて



テレビ画面のスナップ



王亮

王求

亲斤

辛反

2015年(平成27年)

佐久川さんに感謝状

那覇市消防 ペットボトル救助で

ペットボトルを使って川に転落した男性を救助した佐久川紀安さん(64) 18日、那覇市消防局



那覇市の潮渡川に転落した男性を、近くに設置されているペットボトルの簡易救命器具で救助したとして、佐久川紀安さん(64)に18日、那覇市消防局から感謝状が贈られた。

16日、那覇市前島の潮渡川に財布を落とした男性が川に転落した。通り掛かった佐久川さんが119番通報し、消防隊員の指示に従い川沿いに備え付けられていたペットボトルの簡易救

命器具を川に投げ、男性に「大丈夫か」と声を掛けながら消防隊員の到着を待った。

佐久川さんは「通報しただけなので当たり前のことをしただけ。流れもあつたのでペットボトルがなければ溺れていたかもしれない」と当時の状況を振り返った。消防局は同日、佐久川さんのほかに人命救助に功績のあつた8人を表彰した。

琉球新報掲載記事より

人命救助の9人 那覇消防が表彰

那覇市消防局は18日、ペットボトルの簡易救命器具を使って同市前島の潮渡川に落ちた60代男性を救助した佐久川紀安さん(64)ら3件の救命に協力した計9人に対し感謝状を贈った。玉城則雄局長は「いずれの事案も協力がなければ救命に至らなかったと思う」と市民の協力を謝意を述べた。

佐久川さんは「男性は高齢だったので救命具がなければ危なかったかもしれない」とペットボトル救命具の効用をたたえていた。

ほか、1月に首里中学校給食調理員(52)が倒れた

佐久川紀安さん(前列右から3人目)ら、人命救助協力で表彰を受けた人たち 18日、那覇市消防局



際、自動体外式除細動器(AED)など使つて蘇生を行つた同調理員の名嘉元裕基さんら6人と、同月に同市大道であつた火災で半身まひの住人らを避難させた福井栄信さん夫妻にも感謝状が贈られた。

沖縄タイムス掲載記事より